

箱根町自治会長ら洞爺湖町を訪問 交流できずな深める

7月10日、1泊2日の日程で、箱根町自治会連絡協議会親善訪問団が来町し、当町の自治会役員らと交流を深めました。訪問したのは箱根町の自治会長ら16人。

歓迎式では、真屋町長が「来年は姉妹都市提携50年。これからも友好関係を築き、交流をひろげていきたい」と挨拶。それに応えて訪問団の大澤団長は「交流を深めて、楽しいひとときを過ごしたい」とお礼の言葉を述べました。

引き続き、ジオパークについての講演や金毘羅火口の散策などが行われました。翌日の施設見学後の昼食会では、洞爺湖周辺の

肉や野菜、貝類などが提供され、羊蹄山を臨みながらの昼食を堪能していました。



洞爺湖周辺の食を堪能する箱根の自治会長の皆さん

7月5日、平成25年度馬頭観世音慰霊式（馬頭観世音碑保存協賛



焼香を行い、愛馬を慰霊する参加者

会)が、大磯の馬頭観世音碑と歴史公園内の馬頭観世音碑前で行われました。

同公園内で催された式典には、保存協賛会の会員や元馬主、農協関係者ら約30人が参加。亮昌寺の笠谷僧侶による読経が続く中で、一人ひとりが焼香を行い、活躍してくれた愛馬の往年を偲びました。

引き続き慰霊式に合わせて開催している同協賛会の総会が歴史公園内で開かれ、会務並びに会計報告がなされた後、懇親会が行われて会員相互の交流を深めました。

愛馬を偲び 馬頭観世音慰霊式挙行

文人の暮らしや文化を体験する第5回縄文まつり（同実行委員会主催）が、7月15日入江



子どもたちによるたいまつ点火のオープニングセレモニー

貝塚公園で行われ、火おこし、投げやりなどの縄文体験や縄文ワークシート、宝さがしなどで縄文文化にふれ合いました。

たいまつによる点火のオープニングセレモニーに続いて、アフリカ太鼓グループ「トヤトヤ」の演奏と踊りでスタート。

火おこしコーナーでは、なかなかおきない火に、子どもらは悪戦苦闘していました。昼食時には、地元ホタテやサケなどが入った縄文鍋も販売され、好評を博していました。

縄文人の暮らしを体験 第5回縄文まつり

「甘くておいしい」 給食に地場産コロッケ登場

7月17日、地場産の雪蔵じゃがいもとあか毛和牛で作ったコロッケが、本地区の4小中学校の給食に登場し、おいしい笑顔が教室に広がりました。

コロッケは、4月から町内で販売を開始した「雪蔵とうやあか毛和牛サンドコロッケ」。あか毛和牛のしぐれ煮を雪蔵で寝かせ甘味が増したじゃがいもで包んだものです。

5月にも提供され、好評だったことから、「洞爺湖地場

産品協同組合」から約640食分の提供を受け、再び献立に取り入れられました。



地場産コロッケを頬張る児童たち

まちのわだい

